

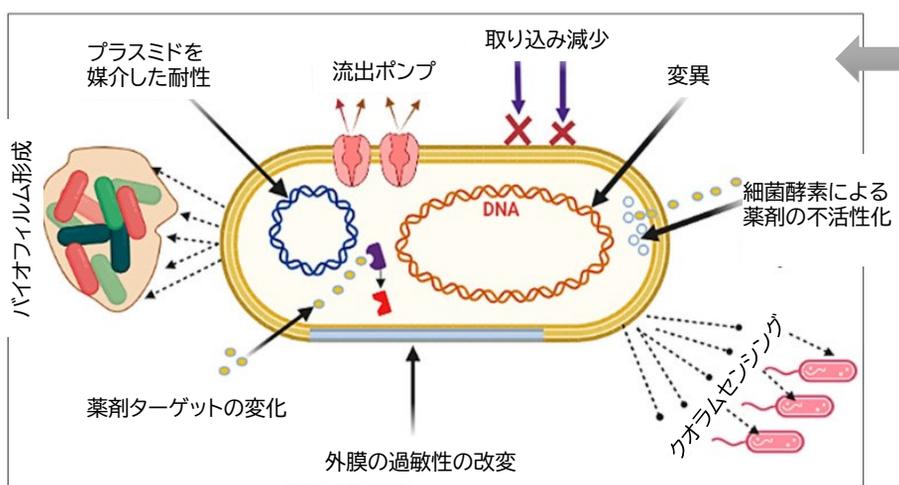
AROGA Letter

Vol.16

～薬用植物の抗菌力を取り入れよう～ 「抗菌危機」時代に突入!?



19世紀に登場した抗生物質は、感染症に悩まされていた人類にとって福音となりました。しかし今、抗生物質の多用乱用によって「antibiotic crisis(抗菌危機)」と呼ばれる事態を引き起こしています。抗生物質に耐性を持つ細菌が増える一方で、新しいタイプの抗菌剤の開発は難しく、すでに**薬剤耐性感染症**は世界中で毎年少なくとも70万人の命を奪っており、2050年までに1000万人にまで増えるとも言われています。



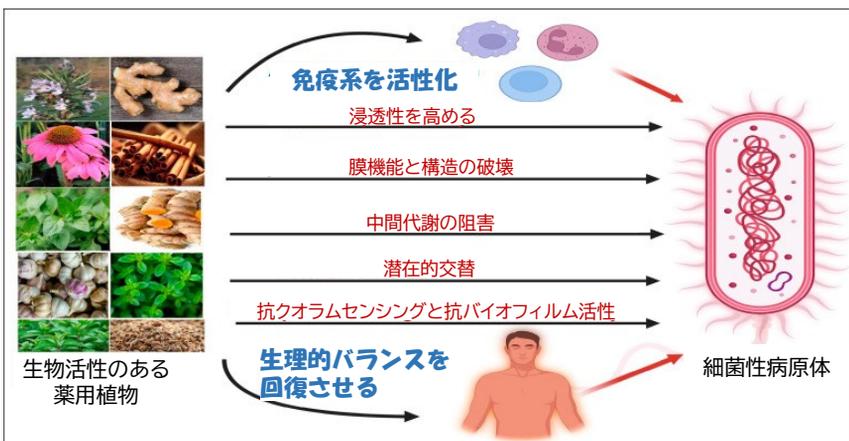
細菌はこんな変化をしながら耐性を獲得します。

細菌は、ヒトの細胞よりもはるかに早く増殖します。そして、環境に応じて容易に変異していきます。

細菌を死滅させるため、膜、酵素、遺伝子などさまざまなターゲットに対する薬剤を開発しても、細菌はすぐに耐性を獲得してしまいます。

一方、植物には、何らかの生理活性をもつ8,000種類以上のフェノール化合物、約12,000種類のアлкаロイド化合物、40,000以上のテルペノイド物質、その他ステロールやオイルなどが知られていて、膨大かつ無尽蔵なレパートリーを持っています。

病原体に対する抵抗力を高める、生理的バランスを回復させる、相補的・相乗的な作用を持つことから、効果のない抗生物質に代わる有望な選択肢と考えられています。



さまざまな働きをもつ薬用植物を日頃から食生活に取り入れることが疾病予防に有効です。発症してからではなく日常的に摂り続けることが、まさに「**汝の食を薬とし、汝の薬は食とせよ**」ですね！